

働くとは

学校を卒業し、20歳前後から働き始めて、定年の70歳まで約50年間の人生を働かなければなりません。将来働くためには、第一になりたい自分を想定し、その目標を実現するために学習や部活動等に取り組み、集団生活の中で、自分という個を十分に見つめることが肝要だと思えます。集団の中の個で生きるのか、家族のような小集団で生きるのか、自分をよく見極める努力が必要です。働くとは自分を知り、自分を取り巻く社会の状況を知り、背伸びせず、身の丈に合った職業に就くことだと考えます。自分にとって最適な仕事に就くことが自

己実現につながります。

第二は、経済的な生活基盤づくりのために働く一面もあります。食べるためにだけに働く人生では少し寂しすぎます。一人一人が充実した人生、有意義な人生を送るためには、楽しく仕事をすることだと考えます。楽しい仕事を通して「世のため、人のため」に役立ってこそ働き甲斐、生き甲斐を実感できます。筆者の周りにいる社会に貢献しようという気持ちを持つて仕事をしている人は、経済的にも精神的にも心豊かに暮らしています。生徒は目の前の学習や部活動等に一所懸命取り組むことです。誠実に生きることでが充実した長い人生を送る社会の幸福の扉を開くことに必ずつながります。

○五月の言葉

どんな時代も「嘘をつかない」「人を傷つけない」心がけがあれば生きる自信につながります。

○語彙力チェック

①「為政者のあるべき姿」を表す「先憂口楽」の口に適当な語を次のなから選んで入れよ。

A 前 B 後 C 大 D 中 E 小

②「千里の馬」という語のものの意味は次のどれか。

A 一日に千里という遠くまで走れる馬
B 一日に千里走れない役に立たない馬
C 千里離れた所の馬を見分けられる人
③「戦慄(せんりつ)」の正しい用法は次のどれか。

A 戦慄が怖い B 戦慄が歩く
C 戦慄が走る D 戦慄が面白い
④次の文の口に適当な漢数字を入れよ。

彼にボールが渡ると大歓声がどよめく。まさに彼は□両役者だ。

(解答) ①B ②A ③C ④B ⑤千